

第4回 播磨町長期総合計画審議会

開催日時	令和7年11月14日（金）14時00分～15時20分
開催場所	播磨町役場 3階 BC会議室
出席者	<p>【長期総合計画審議会委員】</p> <p>田端 和彦（兵庫大学） 足立 泰美（甲南大学） 津村 道彦（（公社）加古郡広域シルバー人材センター） 寶木 和恵（播磨町商工会） 小崎 碧華（はまなす） 宮尾 尚子（播磨町社会福祉協議会） 松下 嘉城（播磨町自治会連合会） 塚崎 早苗（NPO 法人スポーツクラブ21 はりま） 中村 まさみ（播磨町連合婦人会） 尾崎 直美（人権擁護委員） 長谷川 美智子（社会教育委員） 米津 実千代（教育委員） 長谷川 有里（住民委員）</p> <p>【町】</p> <p>佐伯 謙作（町長） 平野 祐次（副町長） 松本 弘毅（企画総務部長） 筒井 和秀（企画課長） 大崎 恵美子（企画課課長補佐） 丸井 直樹（企画課主査） 佐伯 亮太（まちづくりアドバイザー）</p> <p>【ジャパン総研】</p> <p>中山 重寿 片山 涼</p>
欠席者	岡部 祐希（播磨町ふるさとPR大使）
議題	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>（1）パブリックコメントの結果について （2）第5次播磨町総合計画後期基本計画（原案）について （3）答申書（案）について</p> <p>3. 閉会</p>

配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次第 ・ 資料 1 - 1 委員名簿 ・ 資料 1 - 2 配席図 ・ 資料 2 委員募集結果 ・ 資料 3 第 5 次播磨町総合計画後期基本計画（原案） ・ 資料 4 答申書（案）
------	--

1.開会

【町】

・開会あいさつ

【町長】

この会議も昨年度から継続していただき、本日が最後となる。委員の皆様には本当に色々とお世話になり、感謝申し上げます。播磨町は、データに基づいて計画を策定することに注力して取り組んでいる。今回実施した転入者アンケートでは、「通勤通学に便利だから」が最も多い転入理由で、2 番目が「イメージが良い」であった。こうしたアンケート結果を踏まえ、今後も行政としてデータに基づいて施策を立案することは本当に大切だと改めて感じたため、ぜひ続けていきたい。

後期基本計画では、JR 土山駅北地区のまちづくり、市街化調整区域の土地利用、部活動の地域展開など今進めている取り組みをたくさん盛り込んでいる。部活動の地域展開については、学校との連携なしには実現できない。先日、部活動の地域展開についての会議が東京であり、国会議員に対し、様々な要望をしたところである。本日も忌憚のないご意見をいただきたい。

【町】

・出欠の確認
・資料の確認

【会長】

本日の議事録の署名を、津村委員と中村委員にお願いしたい。

2.議事

(1) パブリックコメントの結果について

(資料 2 について町から説明)

【会長】

A 区分（イラストや写真の取り入れ、専門用語の解説など）は、計画全体を変更するわけではないという認識でよろしいか。また、件数（8 件）についてはどのように受け止めているか。

【町】

その認識で問題ない。件数については、前期計画策定時は 1 件であったため、今回は件数も増え、まちづくりへの関心が高まっていると認識している。

(2) 第5次播磨町総合計画後期基本計画（原案）について

(3) 答申書（案）について

（資料3・4について町から説明）

【会長】

計画書の構成はオーソドックスであり、人口ビジョンは3万4千人程度という数字を定めている。イラストや写真はこれから入るのか。

【町】

これからデザインに入り、イラストや写真を入れながら仕上げていく。

【委員】

土地利用の構想について、30年前の総合計画では4つのゾーニングで分かりやすかったが、今回の図（資料27ページ）は具体的な地名が分かりにくい。引っ越してきたばかりの人でもこれからの播磨町が「ああ、こういう風になるんだな」と俯瞰的に理解できるよう、もう少し文字情報や工夫が必要ではないか。

【町】

この図はあくまで「土地利用の構想図」であり、具体的な土地の利用形態については、総合計画に基づいた個別計画である都市計画マスタープランでより詳しく掲載していく予定である。住民向けには、別途、転入者向けガイドマップなどで分かりやすい地図を作成し、周知を図りたい。

【会長】

これはデザイン上の問題だと認識する。今後デザインの修正を行う際に、宮尾委員の指摘を踏まえ、分かりやすくするよう依頼する。この図で重要なのは、薄い緑色で示された、土地利用検討区域を定めたという点だ。これが今後、新たな住民を迎える土地になるという点をご理解いただきたい。

【町長】

以前の計画では、文化ゾーン、ウォーターフロントゾーンなど、ゾーニングしていた。今回は、ベッドタウンとしてのまちづくりを進めるための土地利用の形を示している。

【委員】

総務建設常任委員会への報告は行うのか。また、答申から播磨町議会への上程までの流れ

を教えてほしい。

【町】

総務建設常任委員会については、今年の5月と10月に報告済みである。本日の審議会後、答申をいただき、庁議を経て、議会運営委員会で説明した後、本会議（12月定例会）へとという流れである。

【委員】

100ページで示されている年少人口の目標割合が基準値より減少しているが、予測人口の減少幅に対し、もう少し抑制できないか。

【ジャパン総研】

緑色のグラフが目標人口、黄色のグラフが予測人口である。予測人口は、国立社会保障・人口問題研究所が推計したものである。目標人口は、総合戦略の施策や開発見込みを考慮し、設定した目指すべき数値である。出生率の低下にブレーキをかけるのは難しいが、子育てしやすいまちづくりを通じて、黄色い予測ラインを緑の目標ラインまで押し上げていきたいと考えている。

【町長】

この数値は国立社会保障・人口問題研究所の推計に基づいているため、独自に上げることが難しい。できるだけ高く見積もりたいが、社会情勢から考えるとこの数字が妥当だと思っている。この計画は5年間の計画なので、次の見直しでどう変わるかが重要である。

【会長】

他の自治体と比較すると、播磨町は人口が微増傾向であり、年少人口の割合も13%程度を維持できる見込みであることは、ある意味恵まれていると言える。エビデンスに基づきながら、住宅ゾーンをきちっと作っていくという考え方をご理解いただきたい。

【委員】

58ページの上下水道の整備について、人口減少に備えた広域化が国の指針として示されているが、広域化の計画などは盛り込まれていないのか。

【町】

総合計画では、播磨町のライフラインをしっかりと維持していくことを掲げている。この総合計画を受け、水道経営ビジョンや下水道事業経営戦略といった個別計画の中で、効率的な運営を図る方法を検討することとしている。

【町長】

播磨町はコンパクトで人口密度が高いため、上下水道事業については効率的な経営ができると考えている。今後も安定した経営に努める。

【会長】

最後に各委員より一言ご感想をいただく。

【委員】

この計画が形だけで終わるのではなく、住民自身が参画し、まちを良くしていくことが重要である。転入者アンケートで「まちのイメージが良い」というデータがある。このイメージが良い理由を分析し、その根拠となる部分にこそ、限られた予算を投入しメリハリをつけて政策を実施すべきである。

【委員】

この会に参加させていただき感謝する。播磨町に住んで 50 年経つが、まちはどんどん良くなってきた。財政に限りがあるのは承知している。今後もより良いまちづくりに向けて自分も参加したい。

【委員】

播磨町は温かいまちだと感じている。神戸から引っ越してきたが、子育てがしやすく、人が温かい。役場の対応も丁寧だ。子育て支援センター、幼稚園、小学校の先生方が非常に温かく、子育てしやすい環境である。ただ、高齢になった時の交通の便については少し不安を感じる。

【委員】

色々な意見を言わせていただいたが、言ったからには播磨町を支えていけるように尽力していきたい。またそのような生き方が高齢者に求められていると思う。

【委員】

総合計画は最上位の計画であり、策定に携われたことを喜ばしく思う。姫路から引っ越して 50 年近くになるが、播磨町は自然に恵まれ、人も穏やかで、災害も少ない素晴らしいまちである。今後も生きている限りこの播磨町で過ごしたい。

【委員】

総合計画の次の段階である、実施計画や関連計画（データヘルス計画など）をさらに知り

たいと思った。スポーツクラブとして、今後何ができるかを考えていきたい。

【委員】

自身が後期高齢者となり、この会に参加して初めて、今まで広報などを見過ごしていたことに気づき、勉強になった。播磨町は素晴らしいまちで、交通の便も良く、買い物にも便利だ。特に地域の方が温かく、子育てをサポートしてくれる環境に助けられた。コンパクトで良いまちなので、この良いところをもっとアピールしてほしい。

【委員】

播磨町で生まれ育って 66 年になる。高齢者の生きがいづくりをテーマに仕事に取り組んでいる。コンパクトで便利が良い一方で、中心部以外ではバスがなく、移動に苦労している住民の声を聞く。将来的には大きな道路の計画もある。自分の自治会は新しい住民が 2/3 を占めているが、自治会加入率は 99% と高い。播磨町は交通の便が良い割に土地が安く、この利点を生かしたまちづくりができればと思う。

【委員】

人権擁護委員として活動しているが、あまり活躍の場がないのは、播磨町が平和で幸せだということだと感じる。この計画は人口減少下にある他の自治体と比べて、前向きで元気のある計画だと感じた。この計画を職員が日常業務の指針として活用できるよう、周知徹底を図ってほしい。

【委員】

教育分野に関わってきたが、地域での子育て支援や部活動の地域展開への取り組みが進んでいるのを感じる。この数年間で具体的な施策を実行していく必要があると感じている。教育の満足度がアンケートでは低いので、教師側も努力が必要である。子育て環境が良いからと播磨町に戻りたいと言う卒業生がいる。フリースクールなど多様な教育のあり方への対応も課題である。

【委員】

40 数年播磨町に住んでいるが、行政について深く考えたことがなかった。この総合計画を通じて、播磨町の行政がまちを作っていることを初めて感じた。播磨町がコンパクトであるため、私のような者にも声がかかったと思っている。住民一人ひとりがまちづくりに参加することで「主人公感」が生まれるのだと思う。多くの住民が「主人公感」を持つことができれば、播磨町が好きだという人が増えるだろう。

【委員】

住民委員として参加し、資料の専門用語の難しさを感じ、計画を見やすくする工夫の必要性を再確認した。10 年前に県外から引っ越してきたが、播磨町はコンパクトで、人とのつながりも深く、人間関係が温かい。都会のようなギスギスした人間関係がなく、子育てしやすい。地域コミュニティへの協力が熱心で、非常に良いまちだと感じた。

【町長】

物理的にすぐできることと、時間をかけて行うべき長期的な課題の両側面がある。この計画は、長期的なビジョンをもって5年間の目標をまとめたものだ。今後は、住民、行政、企業、議会の4者が連携しないとまちづくりは進まない。住民には、しっかりと監視、参画、応援をしてもらいながら、播磨町と関わっていただきたい。

【会長】

委員の皆様の意見を、町職員や町のアドバイザー、ジャパン総研の皆様にも受け止めていただきたい。

【町】

この後、田端会長より町長へ答申書が手交される。その後、12月定例会に上程し、可決されれば令和8年度から計画に基づいたまちづくりが始まる。職員一同、この計画の重要性をしっかりと認識し事業を進めていく。また、計画に記載された指標を毎年フォローし、新たな施策に反映していくことで、PDCAサイクルを進めていく。5年後には第6次総合計画を策定することになるが、今後も引き続き協力をお願いする。

3.閉会